



# 経済日誌

2025年4月15日～2025年5月14日の主な出来事



## 4.16 通勤・通学、公共交通利用は1割弱

熊本市が16日に公表した市民アンケートによると、熊本市民の通勤・通学の移動手段は、自動車が49.9%で最も多かった。一方、公共交通機関は、バス6.3%、市電1.6%、電鉄電車0.3%、JR1.1%の計9.3%だった。それ以外では、自転車が8.4%、徒歩が4.9%だった。

## 4.21 熊本市電、運賃200円に値上げ

熊本市交通局は21日、市電の運賃値上げを国土交通省九州運輸局に申請したと発表した。6月1日から、180円の均一運賃を20円高い200円にする。市電の運賃改定は2023年6月以来2年ぶり。

## 4.22 県内景気判断据え置き 九州財務局

九州財務局は22日、4月の熊本県内の経済情勢報告を公表した。総合判断を「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している」とし、1月の前回判断から据え置いた。据え置きは7四半期連続。消費、生産、雇用の主要3項目も判断を維持した。

## 5.8 渋滞解消、パートナー登録制度創設

熊本県は8日、主に熊本都市圏における交通渋滞の解消に向け、民間企業に時差出勤や公共交通機関の利用促進に取り組んでもらう「渋滞対策パートナー登録制度」を創設した。交通量抑制に向けたソフト対策の効果を最大化する狙い。

## 5.9 熊本市の外国人観光客100万人突破

熊本市は9日、2024年に市内を訪れた外国人観光客が初めて100万人を突破し、前年の2倍の139万2千人になったと発表した。円安の進行やTSMC進出などでアジア各国との観光・ビジネス交流が活発化した。

## 5.12 マイカー10万台減 バス半額実験で

熊本県内のバス事業5社でつくる共同経営推進室は12日、運賃を半額にする実験で2024年10月～2025年1月の路線バス利用者が前年同期比約9万人増えたと発表した。公共交通への乗り換えで、延べ約10万台の自動車利用を減らす効果があったと分析した。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)